

Kawasaki INnovation Gateway

Newsletter Vol.18 2018年3月発行

 川崎市
KAWASAKI CITY
臨海部国際戦略本部
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1
TEL:044-200-3634 FAX:044-200-3540
<http://www.king-skyfront.jp/>

川崎臨海部が目指す30年後の将来像 「臨海部ビジョン」策定



「臨海部ビジョン」とは？

経済のアジアシフトなどのグローバル情勢、重化学工業の国内市場縮小などのローカル情勢を受けて、川崎臨海部は今大きな転換期を迎えています。

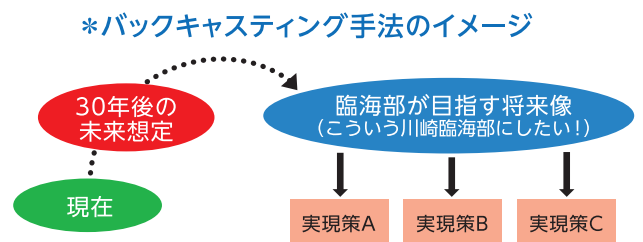
川崎臨海部の現状

- グローバル化に伴う製造機能の海外移転など、産業構造が大きく転換
- 高度成長期以来、生産を続けてきた設備の老朽化が進行
- ライフサイエンス分野の国際戦略拠点「キング スカイフロント」の形成や水素プロジェクトなど、新たな成長産業の芽生え
- 物流・ロジスティクスの進展に伴い、大型物流施設の立地が進み港湾機能が向上

こうした現状を踏まえ、川崎市は「臨海部ビジョン」を策定しました。そこでは、本市における「力強い産業都市づくり」の中心の役割を担い、これからの日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として持続的に発展していくために、川崎臨海部が目指す30年後を見据えた将来像と、その実現に向けた基本戦略やリーディングプロジェクトを示しています。

ビジョン策定にあたっては、有識者や企業との会議、意見交換やシンポジウムなどにおいて、多くの意見をいただき、それらを基に検討を進め、現在直

面している個々の課題に対し解決策を検討し全体を積み上げる方式ではなく、30年後を見据えた臨海部の目指すべき将来像を設定・共有したうえで、その実現策を検討する「バックカスティング手法」*を採用しています。



「臨海部ビジョン」で導かれた30年後の川崎臨海部のイメージは以下の通りです(抜粋)。

■新しいアイデアを形にできる

この地域では、世界中から新しいアイデアを持つ人が集まり、最先端の研究開発と社会実装が行われて、アイデアを形にし、新しい価値を次々に生むことができます。そして、その価値が周辺地域にも波及しています。



■日本最大の付加価値を生み出している

この地域を支えてきたコンビナートの新陳代謝により、基幹産業が高機能化しながら環境調和・スマート化を実現し、日本で最も付加価値を生み出しています。



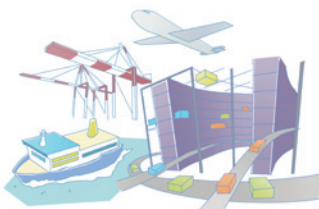
■「カッコいい」「ワクワクする」臨海部になっている

臨海部の取組が広く知られ、また文化的で創造性あふれる地域として臨海部全体が変化していくことにより、これまでのイメージから「カッコいい」「ワクワクする」といったイメージに変わり、市民の誇りとなる新しい臨海部像が確立しています。



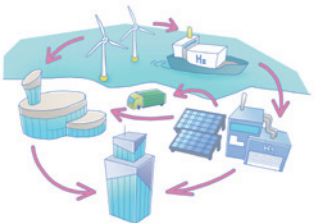
■人、モノ、情報が行き交う拠点になっている

物流の高機能化を図るなど、国内外の重要な結節点としての役割を強化することにより、人、モノ、情報が行き交う日本を代表する拠点となっています。



■ゼロエミッション化している

産業と環境が高度に調和し、新たな原料や素材の開発、クリーンエネルギーの普及・活用が進み、国際社会に貢献しながら地域全体でゼロエミッション化が実現しています。



リーディングプロジェクトとは？

リーディングプロジェクトとは、川崎臨海部の「30年後の将来像」の実現に向けた「基本戦略」に基づいて、直近の10年以内に先導的・モデル的に取り組む具体的なプロジェクトのことです。

時代の変化に対応しながら、適宜、最も有効と思われる手段を検討・実施することにより、相互作用を生み出します。

代表的なプロジェクト

■新産業拠点形成プロジェクト

臨海部の第1層及び多摩川リバーサイド地区を、臨海部全体の大規模な土地利用転換を先導するエリアとして、高度かつ最先端の研究開発や価値の創出に向けた機能転換を図ります。南渡田周辺

地区では、産業活動のデジタル化・ネットワーク化など「Society5.0」を先導し、臨海部全体の機能転換を牽引する新産業創出拠点を形成します。さらに、拠点同士の連携により相乗効果を生み出します。

●第1段階（～5年）

土地利用の検討を行い、土地利用計画の策定等を行う。

●第2段階（～10年）

段階的土地利用を開始し、新たな価値を創出する機能の導入に取り組む。



■緑地創出プロジェクト

市民が活用しやすい効果的な緑を創出するため、共通緑地などの設置により事業所敷地内の緑地の一部を集合化するなど、市民が親しみ憩える、生

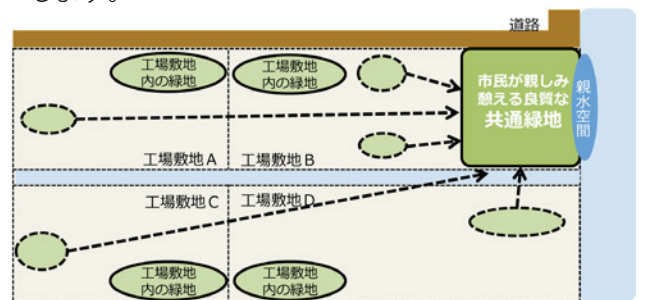
物多様性やヒートアイランド現象の緩和に資する良質な緑地や親水空間、憩い空間を創出・保全します。

●第1段階（～5年）

緑地の創出に向けた最適な仕組みを検討、導入する。

●第2段階（～10年）

市民、就業者の憩い・利便機能を導入する。



■企業活動見える化プロジェクト

企業活動や企業と市民の接点が伝わり、理解できるショールーム機能の導入や教育活動など「企業活動

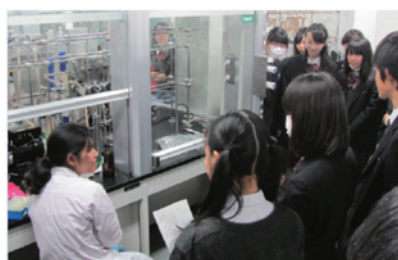
の見える化」を進め、臨海部の認知度・理解度向上、イメージ向上、シビックプライドの醸成を図ります。

●第1段階（～5年）

企業、教育機関と連携した臨海部のPR方法について検討する。

●第2段階（～10年）

企業活動の見える化の仕組みを確立する。また、市民（特に子ども）向けに学習機会の仕組みを確立する。



市内学校による研究現場の見学会



キングスカイフロント夏の科学イベント



キングスカイフロントネットワーク協議会が30年2月16日に設立された。会長に就任した野村龍太氏は、キングスカイフロントへの移転第一号・公益財団法人実験動物中央研究所の理事長です。同協議会の設立目的や活動計画、今後のビジョンなどを聞きました。



ネットワーク協議会の設立で キングスカイフロントは 新たなステージへ

キングスカイフロントネットワーク協議会 会長 野村 龍太

Q ネットワーク協議会を設立した目的は？

A キングスカイフロントは、「川崎の臨海部をイノベーションが生き続けられるようなまちにしたい」という川崎市の働きかけに賛同した立地機関の皆さんとともに築き上げてきたエリアです。私も実験動物中央研究所の移転は2011年7月でしたが、その後、グローバル企業やベンチャー企業、大学、研究機関、そして国立医薬品食品衛生研究所といった公的機関などが少しずつ移転してきて、ようやく「集積した」と表現できる研究開発拠点になりました。

私たちはこれまでも交流の機会を作ってきましたが、「もっと交流・連携しよう」「顔の見える関係づくりは重要だ」という声にこたえて、多くの立地機関が運営を開始した今年度、待望のネットワーク協議会を設立しました。産学公民が交流・連携して、エリアマネジメント機能とクラスター推進機能の向上に取り組んで、魅力的なまちづくりと持続的な発展をめざしていきます。

Q 「エリアマネジメント機能」とは？

A 2つあります。1つは「交流」です。立地機関同士が歩いて集まれるコンパクトなエリアのメリットを生かして、互いにどんな研究をしているのか、相互理解を深め、気軽に相談し合える関係作りを目指しています。そして地域住民の皆さんとも、過去5回開催してきた夏の科学イベントなど、子どもから大人まで、科学に触れられる機会を作ったり、「音楽のまち・かわさき」として音楽会を開いたり、エリア内にできるホテルやカフェ運営者などとも連携しながら、このエリアを理解し、応援してもらえるような関係を作りたいです。

2つ目は「インフラ整備」。ランチ対策やアクセス性の向上、防災や防犯などに取り組み、就業

者が通勤しやすく、イキイキと快適に働くことができるまちづくりをしていきます。

Q 「クラスター推進機能」とは？

A 研究・事業活動の活性化を図りたいと思っています。セミナーやサイエンスカフェの開催をはじめ、神戸、大阪、日本橋、あるいは海外の産業クラスターとの交流・連携を促進し、エリア内外の企業・研究機関との共同研究の創出などを目指します。

幸いにして、ここは面積が狭い(笑)。みんなが歩いて集まることができます。気軽に声を掛け合える関係を作りやすい。本業の部分でもアイデアを出し合って、それぞれの機関で新しい製品やサービスを創出したり、機関同士が融合して新たな研究開発が始まったり、という好循環を期待しています。現在、科学技術振興機構(JST)の事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」が先行して動いており、その取り組みを通じて具体的な機能を検討していく予定です。

Q これからのビジョンは？

A 川崎市内や京浜臨海部エリアをはじめ、国内外の有数の拠点や研究機関とも連携を広げていきたいです。私が初めてこのエリアに来たときは、工場跡の更地で砂埃が舞っていました。しかし、ふと多摩川の対岸に目をやれば、羽田空港の滑走路に飛行機が次々と降りてくる。そしてどんどん飛び立っていく。「国際的な仕事をするにはピットリの場所だ！ここを21世紀のバイオイノベーションのショーケースにしよう」と思いました。2020年の羽田連絡道路開通により、利便性がさらに高まります。川崎発の技術を世界に広げ、さらに世界から川崎へ、研究のインバウンド化も目指していきたいです。